

認知症と介護

No. 77



認知症
アルツハイマー型
50%位
脳血管性型
30%位
その他 20%

認知症であるかないかを検査で確実に判断することは、現代医学ではなかなか難しいとされています。本人が自分が認知症であるという意識がないこと、一般的な病気と違って自覚症状がわからず、病院に行くことがないからです。



認知症はゆっくりと発症し、徐々に悪化していきますので、いっしょに生活する御家族や周りの人が早く気づいてあげることが大切です。



認知症のシグナル



- 物忘れが頻繁に起こります。
 - 古い記憶はあるけれど新しい出来事を忘れてしまうという特徴があります。
 - 生活に支障をきたす物忘れが多くなり、時間、場所、人物の判断が不可能になってきたりします。



- 食事や水分
 - 食事の量や食事の時間に変化がないかに気付きましょう
 - 水やお茶などの摂取量に注意しましょう。高齢者は脱水症に陥りやすいので、いつもどおりに飲み物を摂っているか確認しましょう。
- 娯楽や趣味に興味をもたなくなってきました。
 - テレビや新聞を見なくなったり、集団活動などに参加しなくなったり、社会的関心や興味が薄れてきます。



認知症の治療薬



- ★ 抗うつ薬
認知症の初期に多いうつ病にきく、副作用の少ない抗うつ薬が開発されています。
- ★ 神経遮断薬
異常行動(興奮や暴力など)に対して使用する、神経遮断薬も副作用の少ないものが開発されています。
- ★ コリンエステラーゼ阻害剤
認知機能や精神症状改善に使用されるようになりました。
- ★ 抑肝散(ヨクカンサン)漢方薬
虚弱体質で神経が高ぶる症状(夜泣き、不眠、神経症)などの元来は小児向けの症状に使われてますが、近年の研究によると、進行したアルツハイマー型認知症で起こる妄想や、徘徊、不安興奮などで有意な改善があることが明らかになってきました。

認知症の介護



- ★ 個々の患者さんが出来ることを生かして、積極的に交流を保てる場所をつくることで、病気の進行を遅らせたり、症状を安定させたりの効果期待できます。
- ★ 家族が介護を抱え込まないで、患者さんのペースにあったデイサービスやデイケアなどの公的サポートを利用しましょう。